

第4問 (20点)

当社は、原価管理を効果的にするために、標準原価計算制度を採用している。以下の〔資料〕にもとづき、各問に答えなさい。なお、標準原価差異は当月の売上原価に賦課すること。

〔資料〕

1. 当月の実際販売単価と実際生産量・販売量

実際販売単価 10,000 円

実際生産量・販売量 8,000 個

2. 製品1個当たり標準製造原価

直接材料費 100 円/kg×20kg 2,000 円

直接労務費 900 円/時間×3時間 2,700 円

製造間接費 1,400 円/時間×3時間 4,200 円

8,900 円

3. 製造間接費予算（直接作業時間を配賦基準としている）

変動費率 600 円/時間 固定費（月額） 19,440,000 円

4. 販売費及び一般管理費実際額 6,000,000 円

5. 当月実際原価データ

直接材料費 102 円/kg×160,350kg 16,355,700 円

直接労務費 880 円/時間×24,120 時間 21,225,600 円

製造間接費 33,763,000 円

問1 月次損益計算書を作成しなさい。なお、標準原価差異が不利差異の場合には金額の前に△を付すこと（以下、同様）。

問2 問1で示した標準原価差異を答案用紙の形式に従って分析しなさい。なお、製造間接費差異を分析する際には、能率差異は変動費のみからなるものとして計算すること。

第 5 問 (20 点)

当社は、製品 A を製造・販売している。以下の【資料】にもとづき、下記に示された文章の①から⑪にあてはまる適切な語句または金額を答えなさい。ただし、記入する語句は次のものに限る。

変動製造間接費	貢 献 利 益	損 益 分 岐 点	当 期 純 利 益
固定製造間接費	製 造 原 価	売 上 総 利 益	原 価 差 異

【資料】

1. 販売単価 1,500 円
2. 1 個当たり変動費

直接材料費	直接労務費	変動製造間接費	変動販売費
300 円	200 円	150 円	100 円

3. 固定費

固定製造間接費 891,000 円 固定販売費及び一般管理費 400,000 円

4. 金額はすべて実績値であり、第 1 期・第 2 期ともに条件は同じである。
5. 製造間接費は各期の実際生産量にもとづいて配賦する。
6. 生産・販売状況（期首・期末の仕掛品は存在しない）

	第 1 期	第 2 期
期首製品在庫量	0 個	0 個
当期製品生産量	3,000 個	2,700 個
当期製品販売量	3,000 個	2,500 個
期末製品在庫量	0 個	200 個

直接原価計算による損益計算書では、売上高から変動費を控除して（ ① ）を、さらに固定費を控除して営業利益を計算する。第 1 期の（ ① ）は（ ② ）円、営業利益は（ ③ ）円である。

一方、全部原価計算によると、第 1 期の売上総利益は（ ④ ）円、営業利益は直接原価計算方式と同じである。

第 2 期の営業利益は、直接原価計算によると（ ⑤ ）円、全部原価計算によると（ ⑥ ）円である。この営業利益の差は、全部原価計算において期末棚卸資産に含まれる（ ⑦ ）円分の（ ⑧ ）である。

仮に、第 2 期の製品生産量を 3,000 個とすると、期末製品在庫量は（ ⑨ ）個増えることになる。このときの営業利益は、直接原価計算によると（ ⑩ ）円、全部原価計算によると（ ⑪ ）円になる。